

八代集抄

古今雜上下
雜傳

一七

特別

イ 4

3163

104(7)



我うへは露うへく
わうへはく露は
たうの露はあはじ
ては乃とわへる舟
乃の舟の舟や
何んといふは伊
物草草草草草
さささささささ
やうの草草草草
まへ天は乃舟のか
いの舟といふは
るー^{草草}草草草草
ちうし^{草草}草草草草
あうし^{草草}草草草草
かー^{草草}草草草草

古今和歌集卷第十七

雜歌上

歌上

よみ人きうす



我うへは露うへく
わうへはく露は
たうの露はあはじ
ては乃とわへる舟
乃の舟の舟や
何んといふは伊
物草草草草草
さささささささ
やうの草草草草
まへ天は乃舟のか
いの舟といふは
るー^{草草}草草草草
ちうし^{草草}草草草草
あうし^{草草}草草草草
かー^{草草}草草草草

なりとらハキヨクニ五葉子思共と出ス人ヲシテオホハカウリ
トモノ実居ノ涕乃チヨウキヲ只今乃玉居ル名付ケルコトナ
乃チヨキヨムヨク「ヨウリ史記云片錦雖微（オトリ）禍難（ヒ）學制表（シ）ニ於テ
傳云有善錦不令入學（テタ）製季（上）といフヤムコトナキニハサレ
チ多クぬ人ヲモメクニマシマスといフコトナキニハサレ
アキヲ括セザンといフハマシモト密部

うきうきいふはた
いとわづらひをい
神も包むぢやないか
まは娘のきこえと
に被まつてんと
そよよ主様さまあ
おかれはいろやと
ふふふきくとく

うきうきをいふはた
いとわづらひをい
かきりあきてきつゝめあてあるむい
とまゝもわづらひをい
何人なりといふけしきいさきよ
おかしなことをいふうちきに女の也

かきりあきそふよりいづるなりなきをうていかなある花を
いにしとむるすときとしするおやぐにうると梅の片々つた
あまといくよかり伊勢物語よ、梅乃作枝は難をつけてつ
すもよく葉草れよめる也さうしわねといふも禁中よりう
らふとぞうは集ましくい志仁公の多くさうのみ集めてお殿と
ちひめあはるる多し

ひろき乃いとともとぬよしぎの

ひらき乃いとむなむら
まふあゝあにれとうや

むづろーとて我
ふ人一人ゆゑそゆかりありけれと云ふことば紫の女よ
とてさるる夢のゆかりは夢のゆかり一もとゆへちとていふ
母よりともちとて武義野とていふは紫の女よあやうき事
とてなり

め乃がとてとてりてちとて人よ

乃て之を以て

めのきくし
 我あれ侍をめく
 わんすこい
 河をうらのきぬの
 けこそちやわかれ
 そをうて ^{長少} 統初乃 ^長 絶
 そやうきいふこと
 ひささなりつるこまこと
 こよりりあり皆衣と分別
 葉乃るこまこと
 もるふくきくき見れ
 せさりたりふふ割る

うらきぬきぬきぬきぬき
 せさる
 ひささなりつるこまこと
 のあふきささうわかれさうき
 大納言右原の系はねの御侍
 相より中納言よりありたる時

いらあしと人や
 昔よりうい我
 うめりきうい我
 らんと今とる緩
 乃際きうい
 ぞり
 うのあなりき
 石上の性也南ね
 名也あうりき
 也
 目のひかりやうい
 天子をよめしと人
 なるあふのひ

うめぬうらきぬきぬきぬき
 こよりり
 いらあしと人や
 うい
 いらあしと人や
 へもせき
 こよりり
 まれり
 張き
 目り
 目りひかりやうい

是ハ生リたりともとむしきとをばすの姫うやをうけしるふ
 けしす兵舞乃所あるとわめくかやうふよりのげきとて
 あくすくれくるあてとめい未通女と出天女所とててめか
 よも路とて乃ふ常乃舞姫ハ法を原乃天を吉野乃あふか
 りの時小日者乃琴を乃かたにおも山神乃もとてりて気忽
 たり中乃神女もてて琴乃曲もてていひて舞乃りててい
 神をひるうとてゆりてふ常とてふえとわめくめく毎年
 だこまりて彼神女もててりてとめくしとめくひすもかて
 袂もあきとててとめくひすもかてとてとてとてとて
 ぶ常ハ十月新嘗會乃時だこまりて代りてあふ大嘗會
 とて一神所從出家の乃うとて家員とててててて

おちろりんととくとくとうきんと

古詩

ね、やれどと
 け、さうなるまへ
 ね、ふれあふは
 らん、とてききす
 い、それへさへけと
 あ、さうきとて
 も、いへんそ
 う、さういふ
 お、さき、御通、た
 う、あす
 け、い、ね
 へ、さう、さ
 ね、さう、さ
 下、さう、さ

[illegible]

玉堂乃小瓶在每小

多々二五九

破乃隨分之計小

出づる人なり

五兩之瓶の如く

也
風俗乃

哥子年れ乃二

うこまの破

子造源自見

玉ふれた二つをさへ

又乃乃乃乃乃

てゐるうゝと

そいふなり

以之れん人乃あるなり
 之

玉乃こめやつこふれ

予乃能言けおきりておわ

者

再々玉れ乃こやを中ふすく何ぞ山姓本家なれど

りこころの破りたふかき所は、氣の月三々又ハナ

[illegible]

玉ふたふた、飛たふたふた、一羽の鳥

まゝなすしきし木
木乃木と云ふと
木乃木と云ふと

てしるすうく玉をうると云万葉の玉これのこすのま

そいよりわたりてきりしをよみとす

五十七

子思子

定寧云瓶^ハ子^ハ葉^ハ子^ハ何^ハ況^ハ東^ハ好^ハ中^ハ子^ハ之^ハ一^ハ說^ハ六

瓶乃玉童を不用偏りずその玉れとよむべし

こゝろよりあて玉ふれ乃^{ホウ}釣^ウとて^{ホウ}子^ウ乃^{ホウ}甘^ウと一字を^{ホウ}新^ウ

[illegible][illegible]

一、神功のたふさくは、玉の病といふとく、このやとつ

小希の
けい
と
り
口
説

女も乃々わかれよ

かゝる様事なり
一
先づ

心花よりさ
ふりてはなれ

かゝるべきをいふは

一乃之不_レ行_ニあ_ニて_ハ年_ノあ_ニん

わづらふ人乃家よまのれ

け集賢人乃撰者乃勅へりて江戸に付てゐるものと宋學淺
智れりていふり勅へりて秘筆なりと人々を信すべし
なりと云ふ年なり

[illegible]

かみやまといふ喜むや
後山といふ年ぬわ
りぬれ新のうづるま
やぬるうきくゆえ
とあり

かなやまいさきよりわたりてきてゆん
 うへなる月ハちやとぬるも
 けしきハ人乃いそぐおきよめ
 かなわしうなり

高麗の物産の由
 葉草母伊豆内親王
 桓武第八皇女也
 貞觀三年九月薨
 是ハ志ヲヒツリ
 とありハヒツリ
 けり
 高麗の物産の由
 俄也

あまいし乃船長の毎れを
とるすみゆくまこまあひら
みゆくすしとて時とえま
りりさあつととゆなれい
いりまさ乃みとれとま
とみたりとてしとをとる

おあー御時うへりさうひそ
たあともいおあささひそ
あささひそはあささ
うあささささあささ

こふつと物をもて
世へてとよおし
これとほと異

何つきうう一ち

破る方ふねい
世の言代り
いねまきつと

破るといふ人より
年よりちいさな
も野へいし
まふこと
かゝつて世を

かゝつて世を
わつとと
のうらうら

何つきうう一ち
よふいね
年いあ
人よりち

何つきうう一ち
年いあ
人よりち

かゝつて世を
わつとと
のうらうら

おとせ

何つきうう一ち
年いあ
人よりち

おとせ

何つきうう一ち
年いあ
人よりち

おとせ

何つきうう一ち
年いあ
人よりち

[illegible]

名うゝそつ思をすらわさつ建
おふえにやうけりける時よあけり
おふえかこめする玉よとちりやれ
何ぞもとうむねしありぬてき
あひ志けりける人乃すきに
まうてくるまよなくはる
り
ふ乃くかね
住ぐとあらうてもありなす
ひとわすれなきあやうき
いさるもの長居するこそ世の深

舟をよませし
也西の川大井川
戸田鶴乃立るに
五ハよせしゆね
はしとてゆもそ
白鶴のさめし
ふりうしうう
はまはるる舟の君
あそむるうさ
治とてむきそめ
つこゆをと還河
と河みまそそ
君の舟長ふら
能渡舟ふら又覆

よせしうねはうさ
中務乃今に家乃池は舟を
はるしうさうさ
いける目法ははるし
しうさうさ
かちかりうさうさと
よみてなる伊勢
ふりうしうう
うさうさ
か

船どうふ本文の
唐琴泊つた
やこまきひ
都もくさふ
唐琴の浪と
すけし風の
ろと海なれ
こまき舟
いさな
つる舟の
まき舟の
洞の
佐乃

ふさの法
やいさ
浪乃すけし
ぬのいさ
在原の平
こまき舟
世乃
布乃乃
らつ
は
ま

世乃中八河之民也

世中ハ何ノ常位ニハ

あゝすの川のほとり

古子之

多の漸くかゝると

主客之

門の

亭子門外之

明月香可也之象

明日煮にこしの名

少くまの面う

多六

方集乃序小

と世をわたりて

之七 古序小園

我

一

古今和歌集卷第十八

雜序下

歌志

上人書

世の中ハ素々成なる所すべし

きのふのあむらうなつとあむらう

くちもい
我々をい

あまのこころをいふ

いほすの川乃敷るちるうふきこ

要書之在寂之所也

卷之四

A close-up, vertical view of the fore-edge of a book. The image shows the thickness of the pages, which appear aged and slightly discolored. The binding material, likely dark leather or cloth, is visible along the right edge. The spine of the book is on the left, showing some wear and a small dark mark. The overall texture is that of old paper and leather.

位にたれはすまへ
世あゝなりと
ありふらんやうも

ありふらんやうも世なり
波方とてさう風うきく

かひをわすれしを
さすすはてしなく
次と世のそやうも
あまのぼろとて
あまのぼろとて

うせい

うめ世にほり
世をいふとて
うめ世にほり
うめ世にほり
うめ世にほり

うめ世にほり
野うめ世にほり
うめ世にほり

我こそ世にほり
うり肝要なり
とれけりハとてさうり
華肅經文云三畏唯一心必是別法

世中ハびうよりわハ
世中ハびうよりわハ
世中ハびうよりわハ
世中ハびうよりわハ
世中ハびうよりわハ

法人ふあ

世中ハびうよりわハ
世中ハびうよりわハ
世中ハびうよりわハ
世中ハびうよりわハ
世中ハびうよりわハ

世中ハびうよりわハ
世中ハびうよりわハ
世中ハびうよりわハ
世中ハびうよりわハ
世中ハびうよりわハ

世中ハびうよりわハ
世中ハびうよりわハ
世中ハびうよりわハ
世中ハびうよりわハ
世中ハびうよりわハ

世中ハびうよりわハ
世中ハびうよりわハ
世中ハびうよりわハ
世中ハびうよりわハ
世中ハびうよりわハ

世のうきめはね
世のうきめはね
へんすふ我
ふふふふ
けふふふふ
成ふふふ
るれふふ
そり錠絆馬錠人曰馬羈
世をすふふ
世をすふふ
そ入ぬふふ
ふふふふ
うふふふ

楊都良の
より乃より

せううきめそねやまへいふふ
 ちふいとさうわーりたれ
 山乃ちうちうちうち
 九に内を流ね
 世をすてふは入るやまめく
 ちをうきめそねいづちうちうち
 ちをいづちうちうち
 そんそよめ

九河内子流叔

世をすくふ人
世を捨てし人
世を捨てし人
世を捨てし人
世を捨てし人
世を捨てし人
世を捨てし人
世を捨てし人
世を捨てし人
世を捨てし人

いよきふらあいらんけのこれ
うきうきあけきよといきすや
おきききききききききききき

歎与々々
怯人不知

世にふたつゝのそ
せうれい人のあはれ
さうさうのまぐ
うきうきこころ
その心をけり
わくわくとよめ
あやしいこと
竹ハサミと
わくわくする
しる。我々の

[illegible]

乃

高世貞親筆

密

予我成るるをよめとてにわが心は

わづらふとやふふ
玉さうふとて我を
いふととや人の
はすの海よりか
これに倦むと
てふとて倦むと
人よつとてとて
るあくわつとて
をわつとて常
奇十首撰つとて
左近将監とて
是ハ解官とて
ささつとて
也解官ハ三
一ハ長解父

ゆゑふまらうとてゆゑふ人
はうとて 在原行平朝臣
わづらふとやふふ
これに倦むと
てふとて倦むと
人よつとてとて
るあくわつとて
をわつとて常
奇十首撰つとて
左近将監とて
是ハ解官とて
ささつとて
也解官ハ三
一ハ長解父

寛平二年
左近将監

とれぬ事ハ必
友を解一ハ病解
病ハサハハハ
解也一ハ理解
よりわく解官
何れに
男を
こ
う
い
あ
我
す
解
何

何れに
われ
わ
あ
こ
う
い
あ
我
す
解
何

平

世より果ね合納
 ちれちりのれと教
 うさうさ上げくこ
 ずしうさうと常ふ
 縁路すすきさうこ
 けくね乃乃あめと
 春宮の帝カカレハ
 まさふさふさのやま
 のうけうてうり
 毛もけをさうけ
 よめる也はくくね
 筑波山こい葉のけくね
 今うけうさうけう
 いふふふふふふふ
 古式うさうさうさ

うさうさ上げくあけくさうさ
 今乃乃やれうさうさうさ
 とややけくうさうさうさ
 うけくけくうさうさ
 けくね乃乃あめとにうさうさ
 ま乃乃やれうさうさ
 官道繁興内膳典膳
 今乃乃やれうさうさ

いりちあきさうりハ
 思乃乃やれうさう
 何のそふふふふ
 人乃乃やれうさう
 うさうさうさうさ
 えね乃乃やれうさう
 ちうさうさうさう
 ねさうさうさう
 乃乃やれうさう
 今乃乃やれうさう
 うさうさうさう
 うさうさうさう
 今乃乃やれうさう
 伊勢権乃里うさう
 今乃乃やれうさう

今乃乃やれうさう
 うさうさうさう
 いりちあきさうりハ
 思乃乃やれうさう
 何のそふふふふ
 人乃乃やれうさう
 うさうさうさう
 えね乃乃やれうさう
 ちうさうさうさう
 ねさうさうさう
 乃乃やれうさう
 今乃乃やれうさう
 うさうさうさう
 うさうさうさう
 今乃乃やれうさう
 伊勢権乃里うさう
 今乃乃やれうさう

[illegible]

少の事乃里う佐博く、
 くさくさこちりり、
 人ふまをく

とうりな
 うきく位一里を越へて
 うきく野とやありん
 あり
 よき人
 師とありて
 とうりな

あけの野とあら
霧に鳴り奉らんやうなまゝも思ふはるかな
さうぞうし物をかりうめうすくよくち伊勢
よらうとをかりて鳴きんとかきは舞うめうゆんと
かきうめうたりたりあらむいづれともなきことなり物
こころありかし

三十一

照るにやうに
もつたにやうな
柄一木の葉も
也弁乃柄の柄
とハ晋王實と云
窮をよりふに
これハ仙人の夢を
うつをんくや目
と云ひて立ぬれ
弁乃柄をより
四里よりゆりぬれに七世乃孫もあひよりけいを基をうち
と云にやうてと云うより
何りより神のちやあや何りより人乃神乃中よお龜に入
ての我もあや
あやのやうなや

くちと云うや
女と云うとあやよりき別
てのちよけり
ケちの
何りより神乃ちやあや人乃人
わと云やわれあやいなり

寛平御時よと云うのや

遣唐使也唐使宗
ハ大使副使判官主
典乃人乃使も小
と云て四船と云
おとそをの舟
と云て武清寺
が乃舟とやうに
と云うやわの
おにきと云
あやけりやうな
程々よ目殺されに
あやけいあやの
よあやのあり
節のちやあり
節のちやあり

あやけりやうな
乃と云ひもくおの
と云へるにわてよ
る原と云

あやけりやうな
おとそをの舟
おとそをの舟

あやけりやうな
程々よ目殺されに
あやけいあやの
よあやのあり
節のちやあり
節のちやあり

いあ〜ぬ〜ぬの。
くむ〜り〜と何〜
いれにきき〜

いふ〜き〜ゆ〜
立甲〜り〜本錦付
多のね〜き〜
い謝〜き〜す〜
こ〜や〜衣〜立甲〜
い〜き〜き〜き〜
い〜き〜き〜き〜

いふ〜き〜離人〜
を〜き〜き〜
わす〜き〜
き〜き〜
い〜き〜
い〜き〜

か〜い〜ぬ〜
す〜き〜
い〜き〜
い〜き〜
い〜き〜
い〜き〜

い〜き〜
い〜き〜
い〜き〜
い〜き〜
い〜き〜
い〜き〜

い〜き〜
い〜き〜
い〜き〜
い〜き〜
い〜き〜
い〜き〜

い〜き〜
い〜き〜
い〜き〜
い〜き〜
い〜き〜
い〜き〜

あきうー 秋の時ふふうをう
冬に雲うせううー かもいふ
あきうー 秋の時ふふうをう
うううううううううう

おいのちをいふはたぬに
年の数ふにやよはれ
とやていふてさるえ

本此ぞ。さかづい。あゝの橋た
あゝの橋た。あゝの橋た。あゝの橋た。

お方きねかたねん　さすふ令
やうれえ　うらまゐる　ちやまれ
うらまゐる　ちやまれ　とていふ所あ
きりきり　さすふ令　をとりかへ。

君やちよを
わえつるん

中へ母あふさやふれ
 こゝれふもおれふるる

今古但モモ同おな名なのも也なり私わが三神山さんじんざんと八達菜はつたさい方丈瀛ほうじやうよう也なり是こゝとこれ也なり
わくえつゝんわく成つゝん也

きふ代は何より此 ちう代より何の事にもなりぬ。又今

といせ川の川のふもとに
 移年をくみあひてん二本河の松
 君さす今をこれ山乃みぢやのさ
 神さ月ひさ乃あのをや成なり

韞翰奇

歌々
 梅乃花
 乙

素性法師

[illegible]

何より其の如く

常々たのむれ候ものなりや只一箇の事なりと母の言も
乃ちやすすきと異れぬやうに思ふなりはなれども
こころをよみ

新之助

五ノ人

しうきいふに
る也はまといふ
ひくともあれ
やとつむそび
まつむとうてり
服中より出づれば
秋雲の霞をこれに
糸の端乃ちえけ
隠れつつも女

秋それへのうらなふさすか
つき方人のほろこゝんぐさ
ぬきなりされへふられに母心
たれするそうえられず。
もと人々おんとすれいおもせ
うーうさゆれ名よころまれ

الحمد لله رب العالمين

[illegible]

此の世はわろい

寛平御時さといふまに奇合の

Handwritten text in cursive script.

原正和子

かゝるむと云ふ
ふ古物より蓋を

新風了知方已如——若此也

夢中見

Handwritten text in a cursive script, likely a signature or a name, written vertically.

後松遺

何す美とんと書る月とる

序より新出のそと
熟よりとどけ

三 乃豪乃うゝより風の雪と

新古今集
にふゆ

from my old friends

里へまてはうへる

[illegible][illegible]

野うひぢゞゝゝゝゝゝゝち推しん
當乃らゝれやゝゝ乃らゝや
わきりゝゝ人乃はまありゝゝん
乃らゝゝゝゝゝゝゝゝゝ乃らゝの
さゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

六十九

何事も乃て是より多成ぬ事ハ
 事つらて是より多き事なり
 在乃たは是より多

[illegible]

けいしんを
 おせいせ
 おろそかのあひん
 まじりておひきかうし
 いさかきこゝろに
 ふみふまれ
 子
 葉はたふの女
 ようちうへに我れふいにぬるまゐりに
 いづつもふすゝもくちやち
 氣まゝと
 漫波 安徳清和物語

おつゝいふものなほうらん
 といふげふれ森とあゝあ
 大彌 海とあゝあ
 あはれいふものなほうらん
 といふげふれ森とあゝあ
 おつゝいふものなほうらん
 といふげふれ森とあゝあ

